

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成28年11月15日(火) 11:00～11:45

場 所：法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

発表事項

1. プリンテッドセンサの実用化開発へ
～株式会社フューチャーインク、1.7憶円の資金調達により開発本格化～
2. 山形大学の研究紹介～子どもと築く復興まちづくり～
3. 学生が空き家をリノベーション、“Agasuke House”がオープンします
4. 山形県地質図(10万分の1)を出版 ～50年ぶりの発行～

お知らせ

1. 廣瀬教授がJSTの大学発新産業創出プログラムに採択されました
2. 社会人力育成山形講座 総括フォーラムの開催
3. 山形大学校友会設立10周年事業について
4. バーチャルオープンキャンパスははじめました

(参 考)

○ 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時:平成28年12月6日(火)11:00～11:45

場 所:法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

学長定例記者会見(11月15日)発表者

1. プリンテッドセンサの実用化開発へ

～株式会社フューチャーインク、1.7億円の資金調達により開発本格化～

有機エレクトロニクス研究センター長

学術研究院 准教授(大学院理工学研究科担当)

ときとう しずお
時任 静士
くまき だいすけ
熊木 大介

2. 山形大学の研究紹介～子どもと築く復興まちづくり～

学術研究院 教授(子ども環境・都市計画)

さとう しんや
佐藤 慎也

3. 学生が空き家をリノベーション、“Agasuke House”がオープンします

理学部数理科学科3年

人文学部法経政策学科2年

たかはし まさよし
高橋 幹佳
はねだ はるか
羽田 春香

4. 山形県地質図(10万分の1)を出版 ～50年ぶりの発行～

学術研究院 教授(構造地質学)

山形応用地質研究会 会長

おおとも ゆきこ
大友 幸子
よしだ いくお
吉田 郁夫

プレス発表資料

平成28年11月15日
山形大学

プリンテッドセンサの実用化開発へ

～株式会社フューチャーインク、1.7億円の資金調達により開発本格化～

山形大学有機エレクトロニクス研究センター(ROEL)の時任静士教授と熊木大介准教授らが平成28年4月1日に設立したベンチャー企業「株式会社フューチャーインク」が、科学技術振興機構(JST)の出資型新事業創出支援プログラム(SUCCESS)および、山形県内の金融機関(米沢信用金庫、きらやかキャピタル、荘銀地域協奏ファンド投資事業組合)、ベンチャーキャピタル(東北イノベーションキャピタル、三菱UFJキャピタル)を割当先とする第三者割当増資により、総額1億7700万円の資金調達を実施致しました。

株式会社フューチャーインクでは、印刷プロセスで電子回路を形成するプリンテッドエレクトロニクス^{注1)}技術に関する事業を展開しており、すでに電子デバイス製造用の微細印刷装置に向けた銀ナノ粒子インク^{注2)}の販売を開始しています。将来的にはこの技術を発展させ、印刷技術を使って大面積センサシートや人の体に貼って使える絆創膏型の無線センサタグなどを製造・販売するプリンテッドセンサ^{注3)}事業を展開していく予定です。今後は、調達した資金を基に、これらのプリンテッドセンサの実用化開発を加速させ、ヘルスケアや医療用途を中心としたプリンテッドセンサ事業を推進していきます。

1. 企業概要

社名：株式会社フューチャーインク(Future Ink Corporation)
設立日：平成28年4月1日
所在地：山形県米沢市城南4-3-16(山形大学工学部キャンパス内)
資本金：1億8700万円(資本準備金を含む(平成28年11月15日現在))
代表取締役：時任 静士
社員数：5名(パートタイム含む)

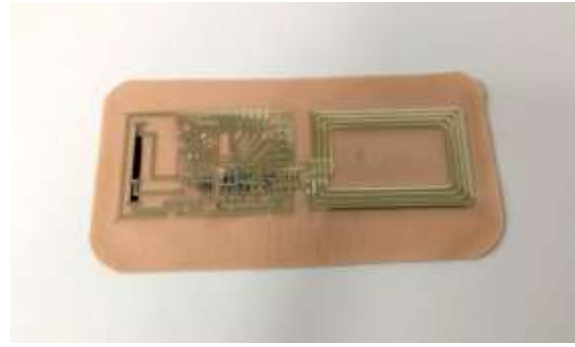
2. 事業内容

株会社フューチャーインクは、JSTの研究開発成果展開事業大学発新産業創出プログラム(START)の支援の下、時任・熊木研究室で得られたプリンテッドエレクトロニクスに関する研究開発成果をもとに、微細印刷装置に向けた銀ナノ粒子インクの開発・販売や、その応用製品であるフィルム型のプリンテッドセンサを試作・開発する山形大学発のベンチャー企業です。

山形大学有機エレクトロニクス研究センター(ROEL)の時任教授、熊木准教授の研究グループでは、印刷法を使って形成する半導体回路の高性能化技術や、生体情報を電氣的にセンシングする有機TF^{注4)}型バイオセンサの開発など、プリンテッドエレクトロニクスに関連した研究開発を進めています。

プリンテッドセンサは、薄いフィルム上に印刷プロセスで形成された電子デバイスで、人に貼って使うことや衣服として装着した際にも違和感が無いフィルム型のセンサデバイスを実現できるため、ヘルスケアや医療分野において今後ニーズが大きく拡大すると期待されています。

株式会社フューチャーインクは、今回調達した資金を基に、プリンテッドセンサのデバイス開発を加速させ、ヘルスケアや医療応用に向けた大面積シート型センサや絆創膏型の無線センサタグといった、高付加価値の新しいセンサデバイス市場を開拓します。



開発段階の絆創膏型の無線センサタグ(温度センサタイプ)

<用語解説>

注1) プリントドエレクトロニクス

印刷法を用いて電子回路を形成する研究分野の総称で、とくに薄い電子デバイスを大量に低コストで製造できる技術が産業的に非常に注目されています。

注2) 銀ナノ粒子インク

数十ナノメートルの銀粒子を溶媒に分散させたインクで、印刷して配線を形成できる電極材料です。

注3) プリントドセンサ

印刷法を使って作製されたセンサデバイスを指します。

注4) 有機TFT

有機材料によって構成された薄膜トランジスタ(Thin Film Transistor:TFT)。TFTは複数の電極層や半導体層、絶縁層から成る積層構造であるため、印刷法を使って高性能な半導体回路を形成するには、数百ナノメートルの膜厚を制御しつつ、数 μm の微細なパターンニングを行う高度な作成技術が必要とされる。

<本件お問い合わせ先>

<株式会社フューチャーインクに関すること>

株式会社フューチャーインク

〒992-8510 山形県米沢市城南4-3-16

担当:熊木 大介

TEL: 0238-26-3290、FAX: 0238-26-3788

E-Mail: daisuke.kumaki@futureink.co.jp

<報道担当>

山形大学 総務部総務課(広報室)

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12

担当:菅井 久美子

TEL:023-628-4008、FAX:023-628-4013

E-mail: koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成28年11月15日
山形大学

山形大学の研究紹介～子どもと築く復興まちづくり～

建築・都市計画分野、福祉や教育分野を融合する形で研究を進めている佐藤慎也教授（子ども環境・都市計画）は、主に①冒険遊び場における子ども環境のネットワーク化に関する研究、②建築・まちづくり等教育手法をベースにした総合的な学習に関する研究③少子高齢化社会における住環境形成に関する研究を行ってきました。東日本大震災を契機として、2011年から「子どもと築く復興まちづくり」プロジェクトを日本ユニセフ協会、竹中工務店と協働で実施しています。

1. 最近の研究活動

東日本大震災を契機として2011年冬より「子どもと築く復興まちづくり」プロジェクトを日本ユニセフ協会、竹中工務店と協働で実施してきました。学校教育としてのまちづくり学習、内遊びとしての子どものまち、外遊びとしての冒険あそび場、を柱としています。本事業の成果として以下の点が挙げられます。

2-1 まちづくり学習

①「未来の教室を考える」授業

2012年 大槌町立赤浜小、安渡小、大槌北小、大槌小5年生84名を対象として「未来の教室」を考える模型づくりワークショップを実施しました。子どもたちの模型で表現された考えを咀嚼し、報告書にまとめ、当時の子どもたちのアイデアを活かすことを設計公募条件に加えてもらいました。今年秋におおつち学園の校舎が創られました。

②「ふるさと七郷まちづくり」授業

2012年から仙台市立七郷小学校6年生を対象として「ふるさと七郷まちづくり」を総合的な学習の時間の集大成として実施してきました。こちらは児童約160名が七郷地区の10年後の未来を1：500の模型で作成するものです。昨年は国連防災会議パブリックフォーラムで発表および展示を行ないました。

③「未来の公園を描こう」授業

2015年から石巻市立門脇中学校1年生を対象に「未来の公園」を模型で表現する授業を総合的な学習の時間として実施しました。生徒たちのアイデアは竹中工務店設計担当者の手で具体的な図面として表現した後、具体的な3つの公園像を作成し、基本設計に採り入れました。2016年度は実際にハンギングバスケットを作成する学習を行い、来春にできる公園づくりの花壇デザインを行ないました。来年度には公園が完成し、継続的に花壇整備が可能な環境づくりを目指していく予定です。



写真1・2・3 「未来の公園を描こう」生徒の作品発表・設計者の模型説明・ハンギングづくり

2-2 子どものまち

2012年から毎年10月に「子どものまち・いしのまき」を地域団体とともに行なってきました。本年度で5回目を迎え、2日間に渡り親子1,200名が参加し、山形大学学生を含む延べ100名がボランティアとして支援しました。この「子どものまち・いしのまき」では全国でも珍しく道路に人工芝を敷き、遊び空間を創りだすストリートパーティという形を加えており、初年度は仮設住宅で離ればなれになった家族同士の再会の場ともなりました。子どもたちも成長し、中学生となった子の中には子どものまちの運営にも意見を持つようになっており、今後の担い手として期待されています。また山形大学校友会からも学生派遣のための助成を受けており、他大学の学生たちとともに若いボランティアの交流の場ともなりました。

2-3 冒険あそび場

岩手県大槌町では日本ユニセフ協会、地元地権者と協働で2014年度に里山まるごとプレーパークを実施しました。大槌町では町の中心部が被災したために2つの河川流域沿いに仮設住宅が分布していますが、地価高騰などもあり、十分な遊び場の確保が難しい状況が続いてきました。2016年にはLight up Nipponの活動に合わせて「落書きハウス」と「ランタンづくり」を行いました。現地で遊び場づくりを行なう個人やNPOなどとも連携しながら、復興区画整理事業後の公園づくりを地域の人たちの手で行なえるような形の支援をできればと考えているところです。

2. 今後に向けて

被災地での子ども支援、子育て支援の研究活動は、今後の少子高齢化が進む地域での子育てしやすい環境づくりの研究活動にも通じるものがあり、今後の山形県での住環境づくりの一助となればと考えています。



写真4・5 2016年8月 里山まるごとプレーパーク Light up Nipponでの子ども環境づくりの支援研究活動

(お問合せ先)

山形大学学術研究院 教授

佐藤慎也 (子ども環境・都市計画)

電話：023-628-4377

Mail：ssato@e.yamagata-u.ac.jp

研究紹介

山形大学地域教育文化学部

佐藤慎也

研究紹介

山形大学 佐藤慎也

地域づくりを主題に建築・都市計画分野、

福祉・教育分野を融合するような実践的な研究・教育活動

- 冒険遊び場における子ども環境のネットワーク化に関する研究
- 建築・まちづくり等教育手法をベースにした
総合的な学習に関する研究
- 少子高齢化社会における住環境形成に関する研究



最近の主な研究・実践活動

山形大学 佐藤慎也

2011年～

子どもと築く復興まちづくり

- ①まちづくり学習
- ②こどものまち
- ③冒険遊び場

大槌町

石巻市

仙台市

日本ユニセフ協会

竹中工務店

山形大学

1986年～

冒険あそび場の実践・研究

- ①被災地の遊び場活動
- ②「新しい東北」の取組み
- ③復興住宅地の
コミュニティ再生の試み

石巻市

仙台市

岩沼市

日本冒険遊び場
づくり協会

冒険あそび場せんだい・
みやぎネットワーク

西公園プレーパークの会

最近の主な研究・実践活動

山形大学 佐藤慎也

2011年～
子どもと築く復興まちづくり

①まちづくり学習



対象 赤浜小・安渡小・大槌北小・大槌小

日本ユニセフ協会

竹中工務店

山形大学

大槌町

未来の教室を考えよう

2012.10～11

教室デザインワークショップ 小学5年

体験・ミニ講座

模型作成

完成発表

教育委員会への報告

アイデア咀嚼

提言

報告書作成

基本設計へ

公募条件への採用

プレゼンへの反映

未来の教室を考えよう

2016.11.12 大槌学園新校舎完成披露会 展示パネル



おつかれさまでした。
楽しそうで、防災もしっかり考えた教室づくりのアイデアがいっぱいあり、うれしかったです。みなさんが、大槌町の子どもたちからこそ、できたことだと思います。困難を解決する力が感じられました。こうした活動を、全国の子どもたちにも知ってもらいたいと思っています。
山形大学 地域教育文化学部 教授 佐藤 健也



みんなの「想い」を活かして大槌学園は設計されました

— ワークショップ提言の反映 —

みんなの「想い」を活かして大槌学園は設計されました

いまの9年生 憶えているかな？

大槌町の小学校5年生によるワークショップ「未来の教室を考えよう」2012(平成24)年

第1回 2012(平成24)年10月24日(水) 10:20~12:15 体育館・教室

○体育館に集まって、声澤先生が佐藤教授を紹介してくださいました。
○それぞれの教室に戻って、特別授業のワーキンググループとして、3つのテーマでお話をききました。
○18のグループごとに「つくりたい教室」と「教室づくりの基準(必要なもの/不要なもの)」をみんなで考え、まとめました。

デザイン椅子の居心地体験 (山形大学 佐藤 健也)

防災・耐震の空間づくり (竹中工務店 岡田 慎)

人体寸法と教室空間の実測 (山形大学 三浦 多穂美)



第2回 2012(平成24)年10月31日(水) 10:20~12:15 体育館

○佐藤教授から今日の作業の注意点についてお話がありました。
○グループごとに、みんなで話しあって「つくりたい教室」のイメージをふくらませアイデアを紙に書いてみました。
○いよいよ模型づくり。グループごとに集まって作業です。広い体育館をいっぱい使い、みんなで力をあわせて模型をつくりました。



第3回 2012(平成24)年11月14日(水) 10:20~13:15 体育館

○おなれない模型づくりはむずかしく、なかなか思うように作業は進みません。○でも、模型ができてきて、自分たちの考えた教室の姿がみえてくると、みんなの集中力があがってきました。先生方もいっしょに手伝ってくださいました。
○全員が体育館にお弁当をもってきて、予定を延長して昼休み時間も作業を進めます。そして、全てのグループが模型を完成させました。



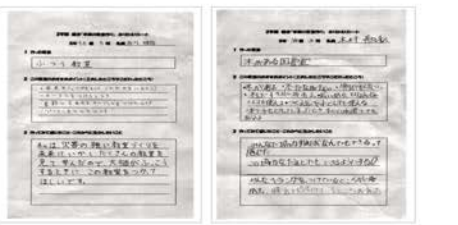
発表会 2012(平成24)年12月7日(金) 教室

○各グループが自分たちの教室模型のアイデアや想いを発表しました。
【ふりかえりシートへの記入項目】(右参照)

- 1 作った教室
- 2 この教室のおすすめポイント(工夫したところやこだわったところ)
- 3 作ってみて感じたこと、これからは生かしたいこと

未来の教室ワークショップ
5年生の想いや未来の大槌小学校の教室を子どもたちで考えながらつくっていった。みんなの意見やアイデアが活かされて、未来の教室が完成していった。

声澤先生のメッセージ



未来をつくる私がおなにも伝えたこと 日本ユニセフ協会シンポジウム 2014(平成24)年3月27日(木)

2014年3月に、日本ユニセフ協会主催のシンポジウム「未来をつくる私がおなにも伝えたこと〜子どもと楽しく復興まちづくり」がユニセフハウス(東京都港区)で開催され、被災地の学校の子どもたちが、震災の体験から自分たちが学び、地域の復興のために考えたことを発表しました。登壇した子どもたちは、仙台市と大槌町、福島県相馬市の3市の小学校の6年生。大槌小学校では未来の教室を考え、模型を作りました。4つの教室がポスター一つで回転する仕組みや、光を取り入れやすい大きな窓など、多くの工夫がなされています。子どもたちのアイデアの一部は、2016年に開校予定の大槌学園に実際に取り入れられる予定です。子どもたちは「完成を見るのがとても楽しみ」とわいわいした様子でした。

基本設計への反映 ワークショップ結果を踏まえて設計

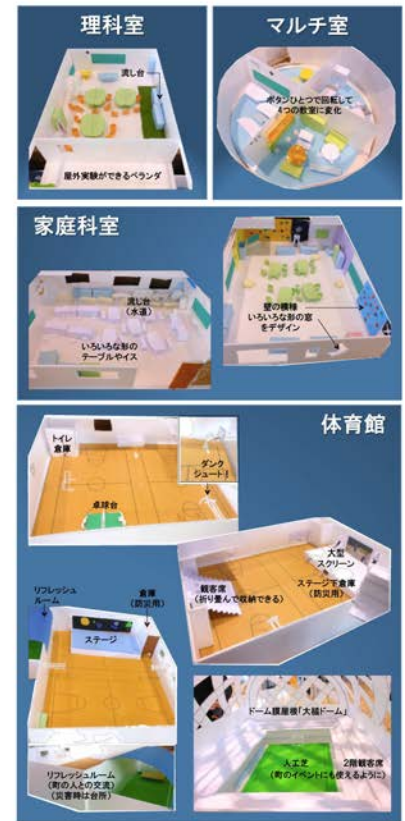
大槌町

141 体育館に集まって、声澤先生が佐藤教授を紹介してくださいました。
142 各グループごとに、みんなで話しあって「つくりたい教室」のイメージをふくらませアイデアを紙に書いてみました。
143 いよいよ模型づくり。グループごとに集まって作業です。広い体育館をいっぱい使い、みんなで力をあわせて模型をつくりました。

設計者からのコメント 建築設計 執行役員 佐々木 洋 様 (明和 久慈設計共同企業体)

● 教室に必要である⇒ 校舎、体育館は既存の柱・梁を構造材、外壁・内装は壁・天井は石膏ボード、家具に協力利用しました。
● 勉強スペースと別に、休憩スペース(休み時間などにゆっくり読みたい)や読書スペースを設けた。
● 教室を10分単位でクラスで使っていく際でも使っていくので、学校の中心にはランチルームを設け1学年の生徒たちが一緒に飲食とスペースをもちました。また、「読書の時間」が「こころサロン」、「ごころコーナー」やディスカッションコーナーなど校内外にも、児童達の自然な読書、交流場所や発表の場所を設けました。
● メディアセンター内には、読み聞かせコーナーやつづきごっこコーナー、集音コーナー等を設置しました。
● 大きなランドリ(廊下)での読書実践、読書イベント⇒ 読書クラスの中庭、バルコニーなど屋外で過ごす空間を確保しました。
● 教室内の天井には、避難生活時に利用できるように、避難生活時のユーティリティ空間(災害時の炊事等)防災用の備蓄
● 体育館に併設して読書教室、技術教室、理科実験室を設計。開校後に高等まで広げ、職業教育等導入、避難生活と小学生生活が両立できる計画としました。

山形大学 地域教育文化学部 山形大学 地域教育文化学部 山形大学 地域教育文化学部
ユニセフ UNICEF 山形大学 TAKENAKA
子どもと楽しく復興まちづくり
～子どもの復興計画を目指して～



【ふだんの学校(教室)のアイデア】

- 各人の机の上にパソコン・タブレット(机面に貼る、ノート不要)設置
- 2つの扉(前面授業のふりかえりができる) / 電子黒板 / スライド式黒板(以前の教室にあってよかったものの再現)
- 机は自由に見たい、読書等のスペースを確保
- 体育館の大型モニター / 学校や町のイベント利用
- 体育館に地域の企業と協力して読書所併設、大きな読書室
- 休憩スペース(休み時間に遊んだり読書したりする)、リラックスできる椅子
- 勉強スペースとは別に、読書スペースを設ける
- リラックスした読書、集中する読書のスペースに分ける(読書、仕上、椅子等)
- 大きなベンチ(屋外の読書実践、読書に活用)
- 本棚を置かない読書室(本は書庫から自動で取り出せる)
- 明るくカラフルな教室(仕上、家具、椅子、壁紙等)
- 教室に本がある
- ドーム型読書室(大槌ドーム)
- 回転教室(ポスターひとつで回転し、理科・図工・図書・家庭科などに変化)

【災害時の学校(教室)のアイデア】

- 地震に備えて大きな家具等は床・壁に固定
- 火災に備えて内装(燃えないカーテン)
- 避難しやすい教室(扉の開口部・出入口、広い廊下、非常階段)
- 一時避難できる大きなランドリ(地上への避難経路を確保)
- 防災避難室の収納スペース(非常食、寝具等)
- 教室内にトイレ、キッチン(避難生活に活用)
- 本棚を置かない教室のスペースを広げ、机がベッドになる(避難生活に活用)

最近の主な研究・実践活動

山形大学 佐藤慎也

2011年～
子どもと築く復興まちづくり

①まちづくり学習



対象
門脇中学校

日本ユニセフ協会

竹中工務店

山形大学

石巻市

子どもたちが描くみんなの公園
2015.4～継続中

公園デザインワークショップ 中学1年

体験・ミニ講座

模型作成

完成発表

基本計画案作成

アイデア分析

模型による
提言

報告会

色彩花壇デザインワークショップ 中学2年

花苗ポット作成

色彩ハンギング作成

子どもたちが描くみんなの公園

2015.5~2016.3 石巻市立門脇中学校1学年

子どもと築く復興まちづくり

日本ユニセフ協会「子どもにやさしい復興計画」支援事業
 unicef 山形大学 TAKENAKA

子どもたちが描くみんなの公園

中学生による石巻市
 新門脇地区街区公園計画

津波と火災により甚大な被害を受けた宮城県石巻市門脇町をはじめた「新門脇地区」では、2013(平成25)年9月から復興土地画整理事業が始まりました。盛り土により一部の土地をかきあげ、道路や街区として公園などを整備していく「ゼロからのまちづくり」が進んでいます。

そこで、私たちは「子どもと築く復興まちづくり」支援事業として、新門脇地区に新たに整備される3か所の街区公園の計画の立案に「子どもたちの参画」機会を創出することを考えました。

石巻市、都市再生機構(UR)のご理解、ご協力のもと、2015年度、中学校1年生の学校授業として公園づくりのワークショップを実施し、生徒たちの提案を活かした街区公園の基本計画を策定しました。

2015年 石巻市立門脇中学校で、公園づくりのワークショップを行いました(1年生/全6回)

● ワークショップの様子 2015(平成27)年5~7月



● 発表会の様子 2015(平成27)年7月



子どもたちの想いやアイデアが詰まった公園模型



宮城県石巻市新門脇地区復興土地画整理事業
 街区公園(3か所)づくりに反映していきます

2015年5~7月
 ワークショップ実施

2015年12月~2016年3月
 基本計画への反映
 (生徒たちへフィードバック)

2016年度~
 設計・公園整備工事



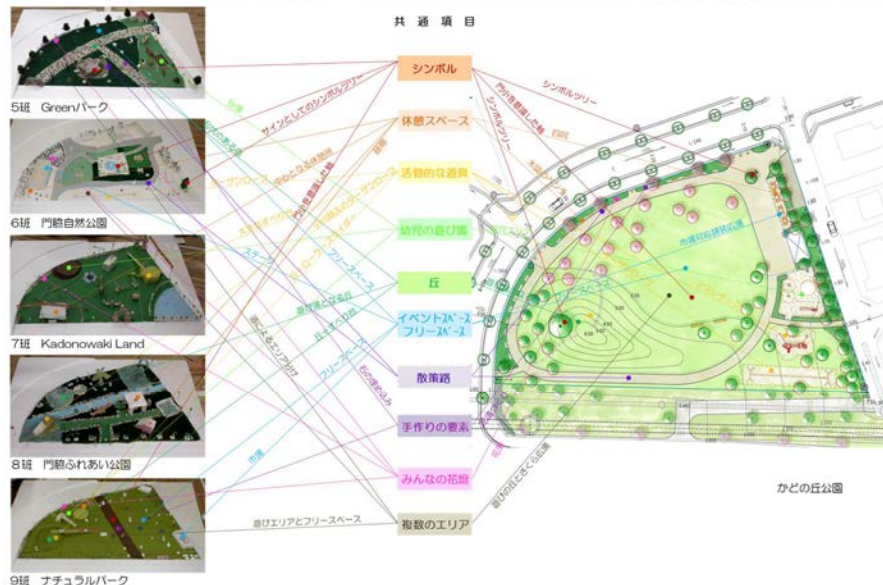
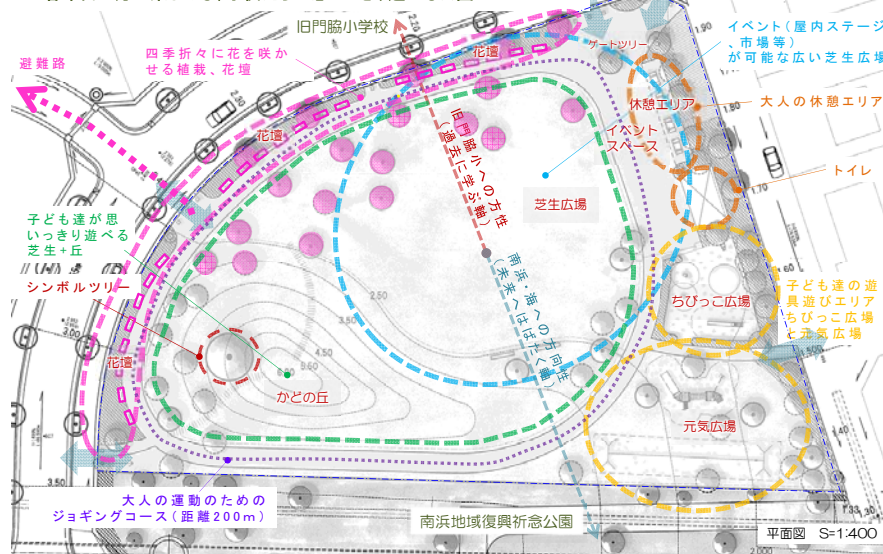
[新門脇地区のまちづくりマスタープラン(UR都市再生機構パンフレットより)]

基本計画案 中央公園『かどの丘公園』

コンセプト

■ 復興した新しい街(新門脇)の元氣、魅力を対外的に発信していく公園

■ 各年代の方が楽しめる、子供たちが思いっきり遊べる公園



色彩花壇づくりワークショップ

2016. 5~7 石巻市立門脇中学校2学年

子どもと築く復興まちづくり

日本ユニセフ協会「子どもにやさしい復興計画」支援事業
 unicef 山形大学 TAKENAKA

新門脇地区 学校と地域をつなぐ
 未来の公園づくりプロジェクト

色彩花壇 づくり

新門脇地区の南側には、国の復興記念公園が創られ、復興への祈りの場、環境共生の場、健康づくりの場として整備が進む予定です。

門脇中学校1年生が考えた3つの街区公園は、地域の人たちの憩いの場でもあり、交流の扉を開く場にもなります。

2016年度は、門脇中学校が地域と連携しながら進めてきた旧門脇小学校前での庭づくりを新たに発展し、継承する形で中央公園を中心に色彩と季節をテーマにガーデニングを学び、花壇づくりを通してこの地区のコミュニティを再生していく仕掛けづくりについて一緒に考えました。

①ハンギングバスケットを用いて、実際に寄せ植えをして、どのように植栽を行えば良いのかを学ぶ。

②季節ごとに咲く花の種類、色相を学び、花壇のイメージデザインを実施。

2016年 石巻市立門脇中学校で、色彩ガーデニングワークショップを行いました。(2年生/全4回)



Surprise Garden (仮称)	Ishinomakish Garden (仮称)
「地域の人々をびっくりさせたい」という生徒の声から、色彩の配色や相性を考慮し、花苗の育成と寄せ植えのやり方を学んだ。	海浜地域に自生していた在来種の再生を支援している方々から、地元の植生を学び、実際に種まきをして苗の育成に挑戦した。

①ハンギングバスケットを用いた寄せ植え

5月13日
 サプライズガーデンとイシノマキッシュガーデンの二種類のガーデニングを想定して花種を用いて牛乳パックや育苗床に種まきを実施



6月17日
 サプライズガーデン用の花種は大部分発芽した。イシノマキッシュガーデン用はハマヒルガオは発芽したもののコウボウムギなどは発芽に至らなかった。また、5月~6月にかけて、天候不順で雨も多く、全体的に思うように生育が進まなかった。



7月8日
 授業参観日に、生徒が育てた苗と購入した花苗を合わせてハンギングバスケットとプランターを製作した。保護者の方と地域の方に参加を呼びかけての活動とし、学校での活動が地域に広がる第一歩とした。



①-その2 サプライズガーデン 花種だんごによる種まき手法

6月17日
 ・培養土に数種類の花の種、水、ちり紙を混ぜて団子状に形成。
 ・ちり紙を巻き、一定期間形を保てるように包み込む。
 ・何の芽が出て何色の花が咲くのかは、お楽しみ!
 ・新門脇の公園にできる花壇での展開を視野に実施した。



②色彩デザインワークショップ 季節ごとに咲く花の種類、色相を学び、花壇をデザイン

6月17日
 ・季節の草花、色の種類(特性)を学ぶ
 ・色紙チップを用いて、花壇をイメージしてデザインした。
 ・14種類の色彩花壇のアイデアが出され、色彩コーディネートへの自信に繋がった。



最近の主な研究・実践活動

山形大学 佐藤慎也

2011年～
子どもと築く復興まちづくり

①まちづくり学習



国連防災会議パブリックフォーラムでの発表

日本ユニセフ協会

竹中工務店

山形大学

仙台市

未来の七郷まちづくり
2012.10～継続中

事前学習

環境学習

防災学習

まち探検

未来のまちづくりワークショップ 小学6年

総合的な学習の時間 集大成の授業

まちづくり学習

ミニレクチャー

基準づくり

模型づくり

地域発表会

地域の方を招いて

国連防災会議での発表

未来の七郷まちづくりワークショップ 2012. 10～ 仙台市立七郷小6学年



日本ユニセフ協会「子どもにやさしい復興計画」支援事業



未来の七郷まちづくり 報告書

2015年3月
仙台市立七郷小学校 6年

1組と2組

テーマ

歴史と自然、安全と便利が
フュージョンした

あたたかなまち七郷

3組と4組

テーマ

人と自然がつながり

幸せあふれるまち七郷

1・2組のまち

■まちづくりのテーマ

歴史と自然、安全と便利がフュージョンした
あたたかなまち七郷

■めざしたまちの姿

歴史と自然は、七郷の魅力です。安全と便利は、子どもからお年寄りまでの願いです。東日本震災のような災害が起きたときにも協力し助け合い、そこに住む人たちの心があたたかい、そううまちをめざしました。

■完成したまち

1・2組子ども市長より



3

<p>A区 明るく安心にいられます</p>	<p>①少しでも緑を増やして環境をよくしてほしい。 ②みんなが安心してふれあえる。 ③お散歩、散歩が安心して楽しく暮らせる。 ④住居が安心して暮らせる。 ⑤子どもや老人が安心・安全に通わせる。快適なまち。 ⑥安全で、困ることはないまち。 ⑦みんな楽しく安全なまち。 ⑧子どもからお年寄りまで安全に住める。 ⑨自然豊かなまち。</p>
<p>B区 どんな人でも 幸せに暮らせるまち</p>	<p>①七郷の伝統を後の世代に伝えていく。 ②地域の交流や行事をすすめる。 ③幅広い年代の人たちが不自由なく暮らせる。 ④いざというときに大丈夫なまち。 ⑤事故が起きないようにする。 ⑥緑が多く、住み込みが明るい。 ⑦助けあふれ、助けあふれ、だれでも安心して暮らせる。 ⑧みんなが笑顔になれる。 ⑨みんなが楽しく、心やすらぐ。 ⑩子どもが楽しく遊べる。 ⑪子どもからお年寄りまで安全に楽しくふれあえる。</p>
<p>C区 3つの視点がそろう 楽しいまち</p>	<p>①今年より事故が減る。 ②子どもも、お年寄りも、交流を大切にする。 ③避難してきた人たちが入る避難所をつくる。 ④楽しくあそび、住居が仲良く過ごせる。 ⑤自然に囲まれた、豊かなまち。 ⑥みんなが安心して楽しく快適に通わせる。 ⑦来ただけで和む、緑のまち。</p>
<p>D区 人の絆が深まるまち</p>	<p>①年齢関係なく、交流できる。 ②助けあふれ、助けあふれ、環境のよいまち。 ③人にやさしく、楽しいまちにする。 ④安全で楽しいまち。 ⑤自然で地球環境化を閉く。 ⑥小さいからお年寄りまで幅広い年齢に合うまち。 ⑦みんなが安心して安心して暮らせる。 ⑧みんなが安心して安心して暮らせる。 ⑨自然を大切にした。環境にやさしいまち。 ⑩みんなが安心して暮らせる。</p>

4

H区のアイディア

<p>① みんなが防災に！ 野良菜市場 震災などで野菜不足になっても野菜で栄養がとれる。近くで自産などの野菜の野菜を栽培する。</p> <p>(しおん)</p>	<p>② 七郷(ななさと)の満 太陽光発電でお湯をわかして使う。人が交流する場となる。中には売店やカフェがあり、交流できる。</p> <p>(はると)</p>
<p>③ 子ども1人でも 安心して乗れるバス 水素で動く。二酸化炭素が出ない。車中、中学生でも乗客の出発などが分かるようになっている。</p> <p>(だいと)</p>	<p>④ 動物にやさしい 動物保護施設 「動物に優しく」をテーマにした施設。動物保護施設。動物が暮らす。動物は新しい生き物だから大切に保護される。</p> <p>(あう)</p>
<p>⑤ 緑豊かで楽しめる 自然アニマルパーク ペットの散歩、保護施設の来客など、人々と動物が自然の中でふれあえる場所。</p> <p>(うめか)</p>	<p>⑥ 七郷自然公園 木に囲まれた自然豊かな公園。大きな花時計。木でできたベンチやブランコなどがある。</p> <p>(はな)</p>
<p>⑦ 災害対応発電自動車 ペダルをこぐと発電できる。発電した電気で電灯や電気の明かりに使われる。災害非常用にもなる。</p> <p>(あゆめ)</p>	<p>⑧ 田んぼアート 田んぼの稲を使って緑の絵。田んぼアート。田んぼの稲を使って緑の絵。田んぼアート。田んぼの稲を使って緑の絵。</p> <p>(らな)</p>
<p>⑨ くるくる回る 防災センター 回って回る。防災センター。回って回る。防災センター。回って回る。</p> <p>(わかな)</p>	<p>⑩ LED展示板 自分の知らない情報を集めよう。照明してくれる。地震のときは、状況に応じて情報が変わる。</p> <p>(たいせい)</p>

13



14

最近の主な研究・実践活動

山形大学 佐藤慎也

2011年～
子どもと築く復興まちづくり

②こどものまち



こどものまち・いしのまき実行委員会 主催

日本ユニセフ協会

竹中工務店

山形大学

石巻市

こどものまち・いしのまき

2012.10～継続中

子ども会議

出店計画

お店体験

交流会

こどものまち 中心商店街 2日間

店舗

行政

ストリート
パーティ

子ども会議

振返り

写真展

子どものまち・いしのまき

2012. 10～ 石巻市中心商店街



最近の主な研究・実践活動

山形大学 佐藤慎也

2011年～
子どもと築く復興まちづくり

③ 冒険遊び場



他大学学生・
地元の方の協力

日本ユニセフ協会

竹中工務店

山形大学

大槌町

里山まるごとプレーパーク
2014.7～継続中

夏の里山まるごとプレーパーク

花壇づくり

ボート遊び

スイカ割り

秋の里山まるごとプレーパーク

栗の毬での焼き芋

芋煮

遊ぼうパン

冬の里山まるごとプレーパーク

四季の郷

みずきだんごづくり

凧揚げ

Light up Nipponへの参加

地域の方とランタンづくり

落書きハウスの設置

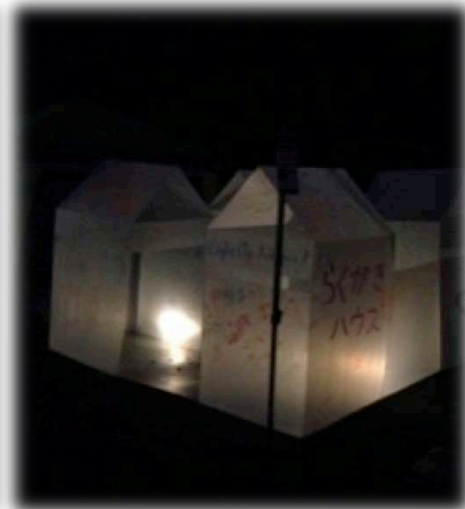
里山まるごとプレーパーク

2014. 7～ 大槌町



里山まるごとプレーパーク

2014. 7～ 大槌町



Light up Nipponへの参加

最近の主な研究・実践活動

山形大学 佐藤慎也

1986年～
冒険あそび場の実践・研究

- ① 被災地の遊び場活動
- ② 「新しい東北」の取組み
- ③ 復興住宅地の
コミュニティ再生の試み

石巻市

仙台市

岩沼市

日本冒険遊び場
づくり協会

冒険あそび場せんだい・
みやぎネットワーク

西公園プレーパークの会



冒険あそび場せんだい・みやぎネットワーク

震災5年「住まいの復興」が進む中で

被災した方々の仮設住宅からの転居が急速に進んだ一年でした。「住まいの復興」が進む「5年目」ならではの課題に、遊び場づくりを軸に取り組みました。

新たな「まち」でのつながりづくり

復興公営住宅・集団移転先などの新たな「まち」では、あらためて人のつながりづくりをする必要がありました。



仮設住宅に残される人に寄り添う

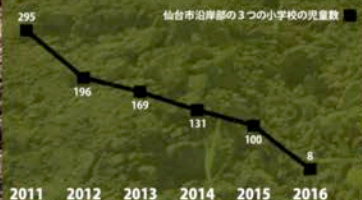
仮設住宅では生活再建の見通しが立たない人が残される場合が多く、そのフォローが不可欠になりました。

現地再建地域の元気を取り戻す

津波被害を受けつつも現地再建が可能なやや内陸の地域には徐々に住民が戻ってきました。ただ、震災前からは激減しており、地域を取り戻すことが課題になっています。

学校の統廃合が進む

2015年度、仙台市沿岸部で津波被害を受け他校に間借りして再開していた3校のうち、荒浜小学校は七郷小学校へ統合、中野小学校は閉校となりました。東六郷小学校も2016年度で六郷小学校に統合されます。



新たな「まち」での交流の場づくり

様々な地域から住民が集まる新たな「まち」で、ゆるやかにつながれる屋外の遊び場の強みを活かして、子どもから大人まで多様な交流が生まれる場づくりに取り組みました。主に大人を対象にした交流サロン「緑側倶楽部」や、町内会施設を利用した乳幼児親子対象の遊び場なども実施することで、交流の幅が大きく広がっています。

仮設住宅での交流の場づくり

仮設住宅でも多世代が交流できる場としての遊び場づくりに取り組みました。「緑側倶楽部」も開催して、ものづくり・お茶っこのみを通した大人の心のケアや、遊び場に来る子どもと大人のつながりづくりに取り組みました。

田園地域の魅力に光を当てる

岩沼市の現地再建地域では、自然豊かな環境を活かした遊び場を定期的に開催しました。都市部から遊びに来る親子も多く、交流を促進していると共に地域の魅力を再認識する機会にもなっています。また2015年度は東六郷小現地での遊び場も始めました。

遊び場でつながる子ども

中野小では、震災の影響で離れ離れの場所への転居を余儀なくされた子どもたちが、放課後スクールバスの発車時間まで一緒に遊べる場づくりを、閉校直前まで継続しました。統合される荒浜小・東六郷小については、移転先の学区での遊び場が子ども同士の顔の見える関係づくりにつながっています。東六郷小は、授業への協力を行いました。

仙台市若林区 七郷地域での取り組み

<遊び場>

- 伊在二丁目公園あそび場(伊在二丁目公園 毎週水曜)
- まふandぼかぼあ(伊在二丁目公園 第1・3水曜)
- 七郷あそび場(荒井4号公園 毎週土曜)
- 荒井東復興公営住宅のひろばであそぼう(荒井東復興公営住宅 月2回~4回)

<乳幼児親子対象の遊び場>

- 上荒井公会堂あそびば「ちびひろ」(上荒井公会堂 毎週水曜)
- 下荒井公会堂であそぼう(下荒井公会堂 第2・4月曜)

<交流サロン>

- 荒井東 緑側倶楽部(荒井東復興公営住宅集合室 第4日曜)

- 復興公営住宅・集団移転先のある地域での活動
- 仮設住宅のある地域での活動
- 現地再建地域にかかわる活動
- 統廃合対象の小学校にかかわる活動

仙台市若林区 六郷地域での取り組み

<遊び場>

- ニッペリアあそび場(若林日辺グラウンド近辺仮設住宅 毎週水曜)
- 六郷あそび場(仙台市立六郷小学校 毎週日曜)
- 六郷ねずみさんのまったりサロン(仙台市立六郷小学校 第2日曜)
- 東六郷小であそぼう(仙台市立東六郷小学校本校 3/20-27)

<交流サロン>

- えっちゃん&おかの緑側倶楽部(若林日辺グラウンド近辺仮設住宅 月1回)
- 大内さんちの屋久根プロジェクト(二木地区 大内氏 奥田 5/19~21・28・29, 11/5, 3/15)

仙台市のその他の地域での取り組み

<遊び場>

- 若林小あそび場(若林区 仙台市立若林小学校 月1回程度)
- 若林西緑側倶楽部(若林区 若林西復興公営住宅 11/16, 2/17)
- 卸町五丁目あそび場(若林区 卸町五丁目公園仮設住宅 毎週土曜)
- 冒険あそび場 in 若林区文化センター(若林区 若林区文化センター・若林区ふるさと広場 8/9)
- 中野小あそび場(宮城野区 仙台市立中野小学校 月1回程度)
- のりっばで遊んでみよう(青葉区 まちなか復興緑地のりっば 11/15, 12/19, 1/10, 3/20)

<交流サロン>

- 卸町五丁目緑側倶楽部(若林区 卸町五丁目公園仮設住宅 6/17)

岩沼市での取り組み

<遊び場>

- 里の杜あそび場(里の杜中央公園 第2・4水曜 第4日曜)
- 楽農村であそぼう! (原直朝とり+楽農村 月1回程度)
- 玉浦西あそび場(こいひつ公園・楽農村 11/14)

<交流サロン>

- 里の杜あそび場 緑側倶楽部(里の杜 仮設住宅・仮設住宅・東住宅 月1回) ※2015年6月14日終了
- 原直朝とり+楽農村「グリーンリーフ」(地方(復興朝とり+楽農村 第2・4水曜)





子どもの遊ぶ笑顔が

第7回冒険遊び場づくり全国研究集会+関連企画
2016. 11. 20~27 IN 宮城県仙台市・富谷市

地域を創生する



子どもの遊びの本質を考え、感じる1週間

2016年11月 20日(日)~23日(水) 子どもの“遊ぶ”がまちにあふれる写真展 【無料】
25日(金) 記念フォーラム 困難を抱える子どもへの支援と冒険遊び場づくり【参加費無料、資料代500円】
26日(土)・27日(日) 第7回冒険遊び場づくり全国研究集会 【参加費5000円、1日でも2日でも同じ、分科会等事前申込要】

主催： 特定非営利活動法人 日本冒険遊び場づくり協会

【平成28年11月2日公開版】

平成28年11月15日
山形大学

学生が空き家をリノベーション！“Agasuke House”がオープンします

「山形の魅力をたくさんの人に発信したい。年々増加する空き家の問題に学生だけで挑んでみたい。実践的な学びの場を創りたい。」という思いから、学生たち3人が山形県東根市にある空き家をリノベーションし、学生だけでシェア+ゲストハウスを創り上げる取り組みを行っています。目的は、外国人も気軽に山形を訪れ、利用できるような環境をつくっていくこと、若い力で山形を盛り上げていくこと。東北芸術工科大学の学生とも協力して、リノベーションを進めている学生たちの“Agasuke House”が、今月末にオープンします。

1. 背景

メンバーは国際交流を通して知り合った高橋幹佳（理学部3年）、羽田春香（人文学部2年）、柴田英徳（工学部4年）の3人。山形に居ながらも、たくさんの人と関わることで山形の魅力を発見してきた彼らは、もっとたくさんの人に魅力を発信していきたいという思いから、地域に根付き、目に見える形としてAgasuke Houseを創りたいと考えました。

2. 活動内容と今後について

I. Agasuke Houseについて

今年の4月下旬から活動に着手し、メンバーは、東根市が行っている「空き家バンク」という制度を活用して、物件を見つけました。しかし、その物件は、水周りを中心とした改修工事をする必要があったため、クラウドファンディングを利用し、改修費用を集めることを決意。今年の9/16から10/6までの20日間で行い、たくさんの方からご支援を頂き、必要な資金を集めることができました。建築や経営の専門ではないため、様々な知識を得るために時間を要しましたが、11/30のオープンに向けてプロジェクトを進めています。

- ・所在地：〒999-3727 山形県東根市野川2584
- ・スケジュール：11/12 学生ボランティアとAgasuke Houseの掃除、片付け、
11/27 東北芸術工科大学の学生の協力を得て外観整備、お風呂場の改修
11/30 オープン

II. 今後の抱負

活動の軸となる部分は「山形の魅力を発信する」ことです。加えて、学生が主体となることで、机上で得た知識を実践的に活用できる環境を提供し、学生の学びが最大化される場所となるようにしていきたいと考えています。Agasuke Houseから山形の魅力をどう発信していくか、地元にどのような貢献ができるのか考えていきたいと思えます。

（お問合せ先）
総務部総務課広報室
電話023-628-4008

平成28年11月15日
山形大学

山形県地質図（10万分の1）を出版 ～50年ぶりの発行～

山形応用地質研究会（※）が長年編集を続けてきた山形県地質図（10万分の1サイズ×4地区）が11月末に山形大学出版会から出版されます。
また、12月11日には、出版発表会を開催しますので、ぜひご参加ください。

●山形県地質図（10万分の1）出版について

山形応用地質研究会が長年編集を続けてきた山形県地質図（10万分の1サイズ×4地区）が11月末に山形大学出版会から出版されます。今回の山形県地質図は、山形県鉱業課発行、神保 恵著、20万分の1 山形県地質図幅説明書が昭和40年（1965年）に作成されて以来の約50年ぶりのもので、「山形大学 山形県地質図監修委員会」の監修を経て、説明書付で完成し、発表の運びとなりました。

●山形県地質図（10万分の1）出版発表会

今回、新たな山形県地質図を広く一般に知っていただき、自分が住んでいる山形の大地の成り立ちや地質図を読み解き、防災や地域づくりに生かしていただくことを目的に別紙のように出版発表会を開催します。プログラム等詳細は別紙をご覧ください。

テーマ：「防災や地方創生につながる新たな山形県地質図の概要と利活用」

日時：平成28年12月11日（日）14:00～15:30

会場：山形市保健センター視聴覚室（霞城セントラル3F）

対象：どなたでも参加可能です（定員140名）参加無料

※「山形応用地質研究会」は、教育機関、官公庁、企業など多岐の分野で活躍する会員からなり、応用地質に関する学識の進歩に寄与するため昭和55年に発足したものです。

（お問合せ先）

学術研究院教授（構造地質学）大友幸子

電話 023-628-4424

平成 28 年 11 月 15 日

各 位

山形応用地質研究会
会長 吉田 郁夫

「山形県地質図（10万分の1）」発表会（出版記念）のご案内

晩秋の季節となりました。

このたび、当会で長年編集を続けてきた山形県地質図についてわかりやすい説明書も加え、「山形大学 山形県地質図監修委員会」の監修を経て完成し、発表の運びとなりました。

「山形応用地質研究会」は、教育機関、官公庁、企業など多岐の分野で活躍する会員が相互に成果・情報を交換しつつ、応用地質に関する学識の進歩に寄与するため昭和 55 年に発足したものです。

今回、新たな地質図を広く一般に知っていただき、自分が住んでいる山形の大地の成り立ちや地質図を読み解き、防災や地域づくりに生かしていただくことを目的に発表会を開催します。多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

開催テーマ 「防災や地方創生につながる新たな山形県地質図の概要と利活用」

日 時 平成 28 年 12 月 11 日（日）14:00～15:30
会 場 山形市保健センター 視聴覚室（霞城セントラル 3F）
（山形市城南町一丁目 1 番 1 号）

対 象 どなたでも参加可能です（定員 140 名） 参加費無料

※（一社）建設コンサルタント協会継続教育（CPD）プログラムの認定が必要な方は事前申込みをお願いします。

プログラム

○基調講演

「山形の大地」 山形大学名誉教授 山野井 徹 氏

○地質図の概要説明 元山形県工業技術センター所長 田宮 良一 氏
前山形県技術士会会長 本田 康夫 氏

○地質図の利活用 山形大学学術研究院教授 大友 幸子 氏

そ の 他

○この発表会は（一社）建設コンサルタント協会継続教育（CPD）プログラムの認定を受けております。

○山形県地質図を予約されていた方につきましては、この発表会で直接お渡しできます。

主 催 山形応用地質研究会
共 催 山形大学出版会
後 援 山形県、山形県教育委員会、山形大学、日本技術士会山形県支部、
山形県測量設計業協会、山形県地質土壌調査業協会、
山形県建設コンサルタント協会、山形県さく井技術協会

【 問い合わせ先 】

山形応用地質研究会 大友 TEL023-628-4424
メール yukiko@e.yamagata-u.ac.jp

山形県地質図 (10万分の1)

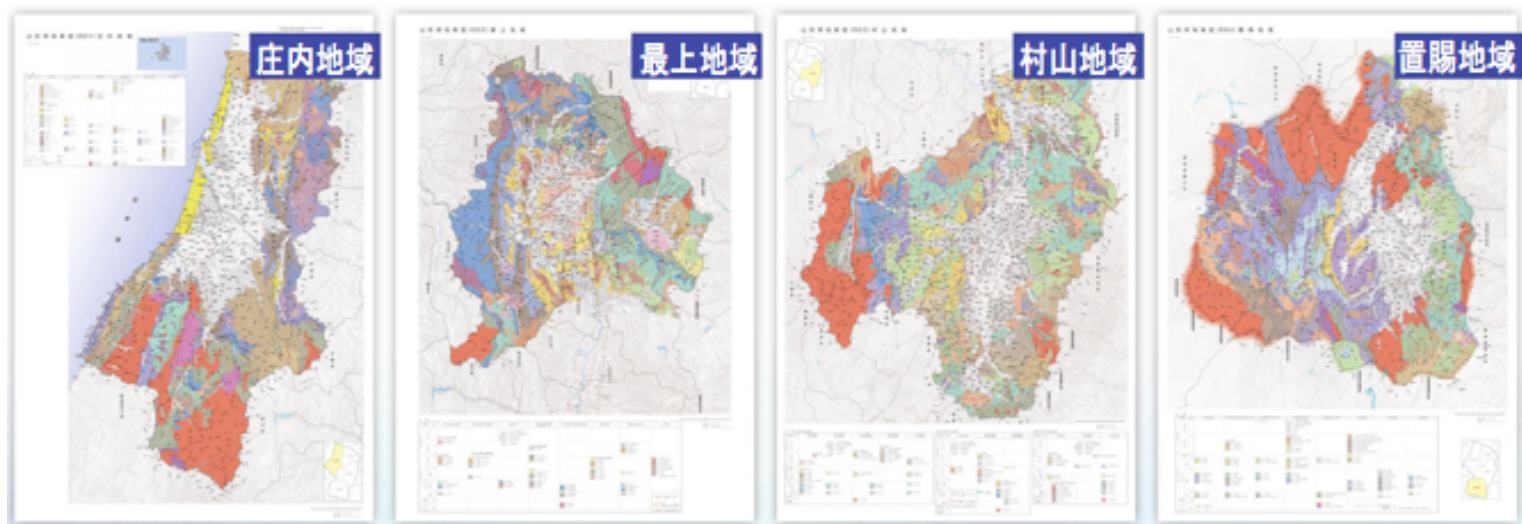
著者：山形応用地質研究会
発行所：山形大学出版会

監修：山形大学山形県地質図監修委員会

「山形応用地質研究会」は、教育機関、官公庁、企業など多岐の分野に活躍する会員が相互に成果・情報を交換し、応用地質学の進歩に寄与するため、昭和55年に創立されたものです。

今回、当会では新たな地質図を広く一般に知っていただき、私たちが住んでいる山形の大地のなりたちや地質図を読み解き、防災や地域づくりなどに生かしていただくことを目的に、新たな「山形県地質図(10万分の1)」を発刊しました。

■地質図(説明書付) ※図はイメージです



4地域セット 定価20,000円(税別)

地域別売 定価6,000円(税別)

出版記念特価(平成29年3月まで) 4地域セット:15,000円(会員は10,000円) 地域別売り:5,000円

【送料】 4地域セット 1部360円、2~3部510円、4部以上はお問い合わせ下さい。
(レターパック) 地域別 3部まで360円、4~6部510円、それ以上はお問い合わせください。

《購入方法》

郵便振替用紙(郵便局備付)の通信欄にご購入の内容、送付先住所、氏名、電話番号をご記入のうえ、ご送金下さい。

※会員特価は山形応用地質研究会正会員(個人)1セットまで

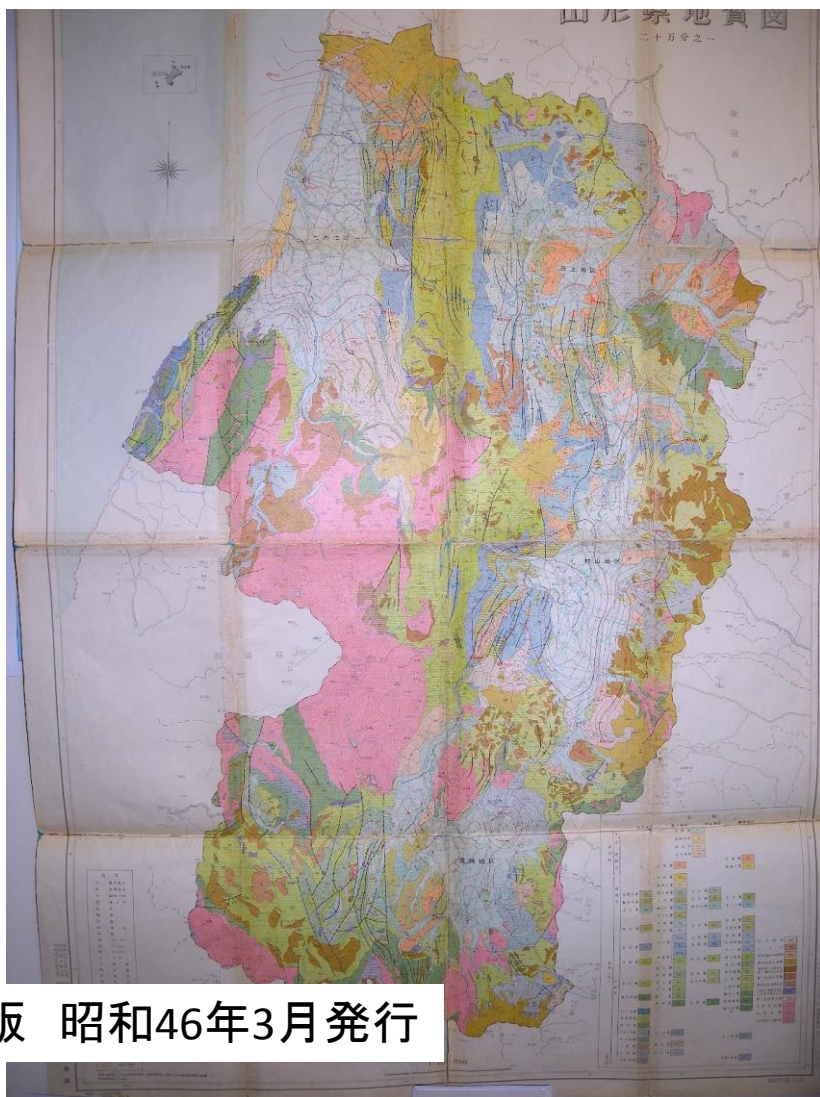
郵便振替用紙の記入例： 4地域セット 2セット(30,000円) 送料(510円)
(平成29年3月まで) 4地域セット(会員) 1セット(10,000円) 送料(360円)
庄内 1部、最上 1部 (10,000円) 送料(360円)

送金先口座番号 02490-4-5123 (名義:山形応用地質研究会)

これ以外の方法をご希望の方はお問い合わせ下さい(e-mail推奨)。

《問い合わせ先》 990-8560 山形市小白川町1-4-12 山形大学地域教育文化学部大友研究室
Eメール yukiko@e.yamagata-u.ac.jp 電話 023-628-4424(研究室に在室時のみ)
URL <http://www.geocities.jp/yamagataoyo/> (問い合わせフォームをご利用下さい)

山形県地質図(10万分の1)を出版 ～50年ぶりの発行～



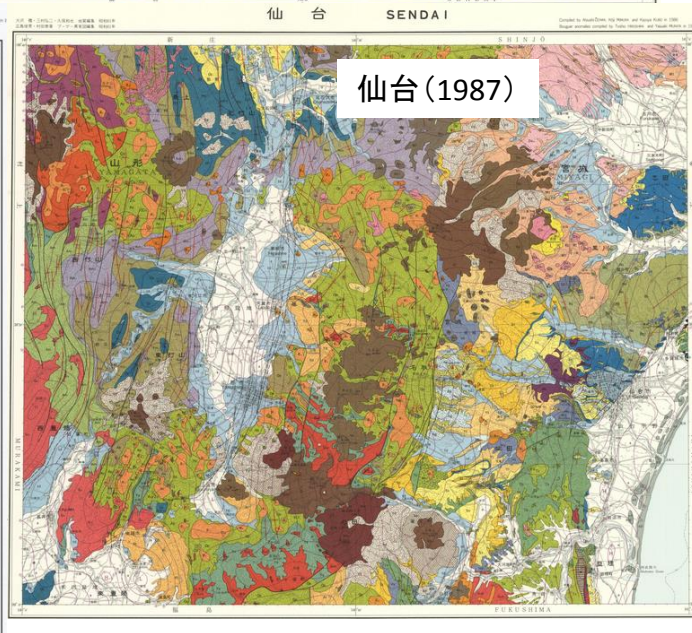
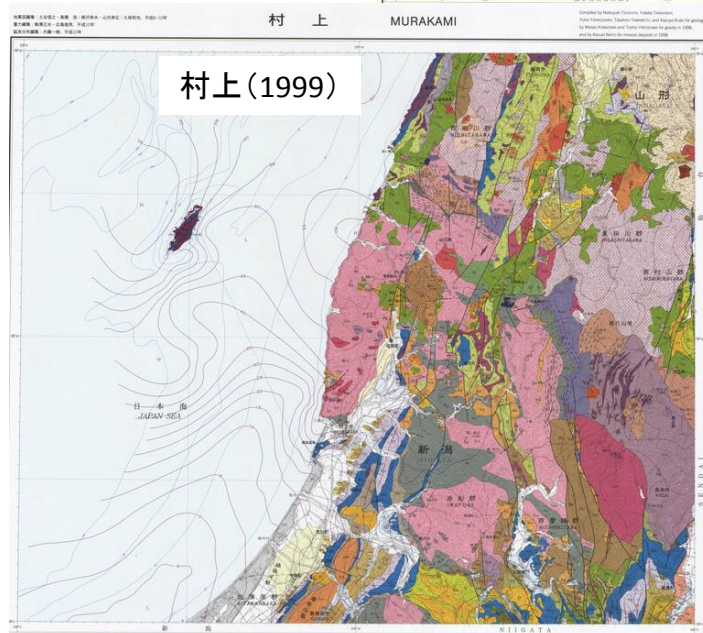
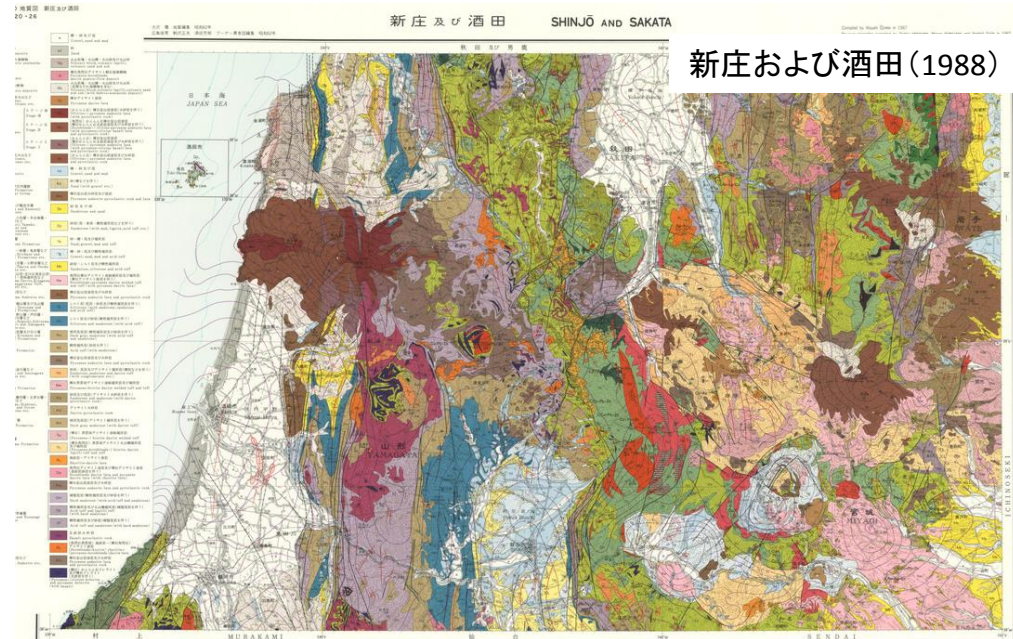
山形県地質図 20万分の1

神保憲著
山形県工業課

初版 昭和35年7月発行
改訂版 昭和40年1月発行
新訂版 昭和46年3月発行

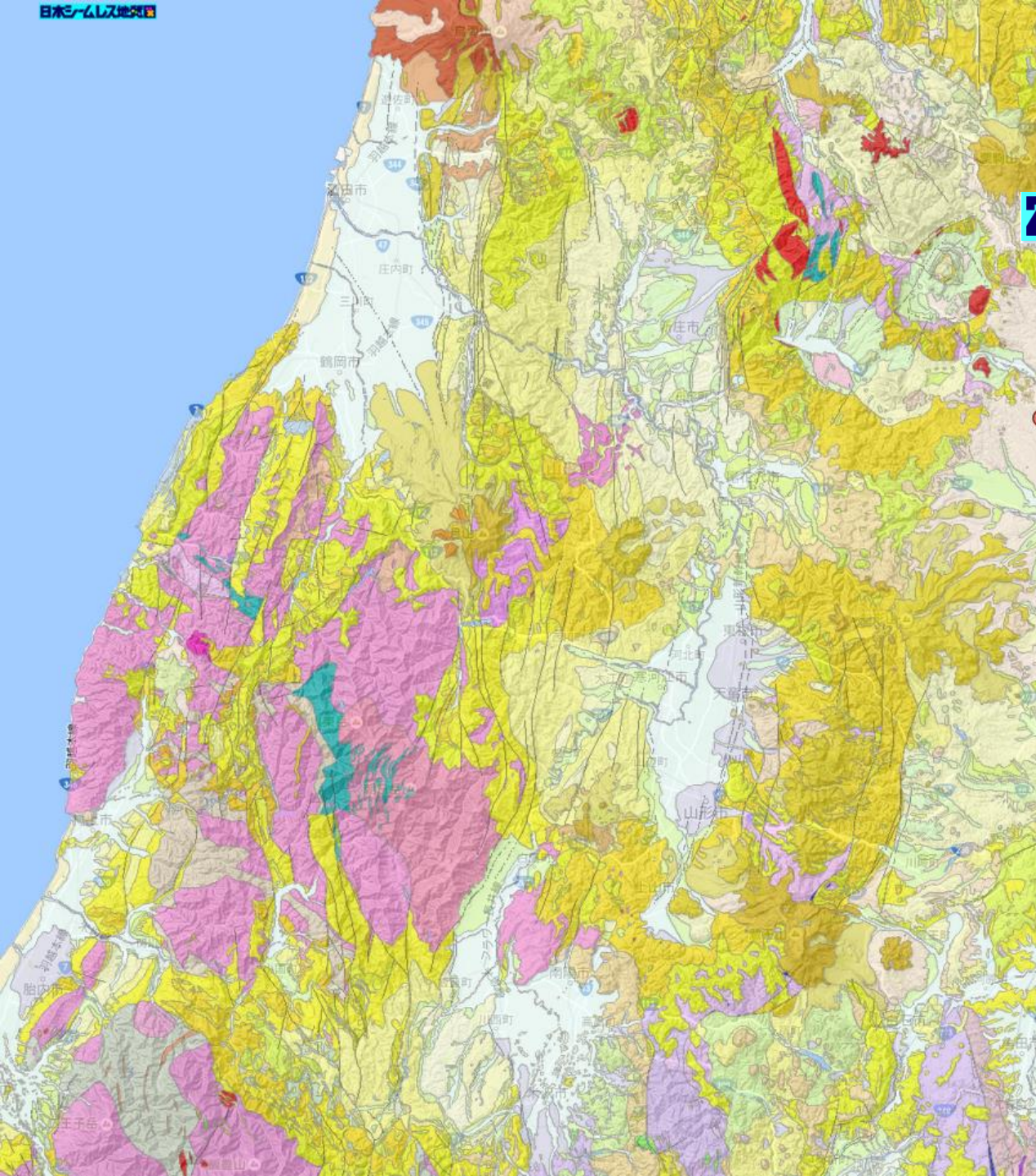
新訂版 昭和46年3月発行

産業技術総合研究所地質調査総合センター 20万分の1地質図幅



新潟(2010)

福島(2003)



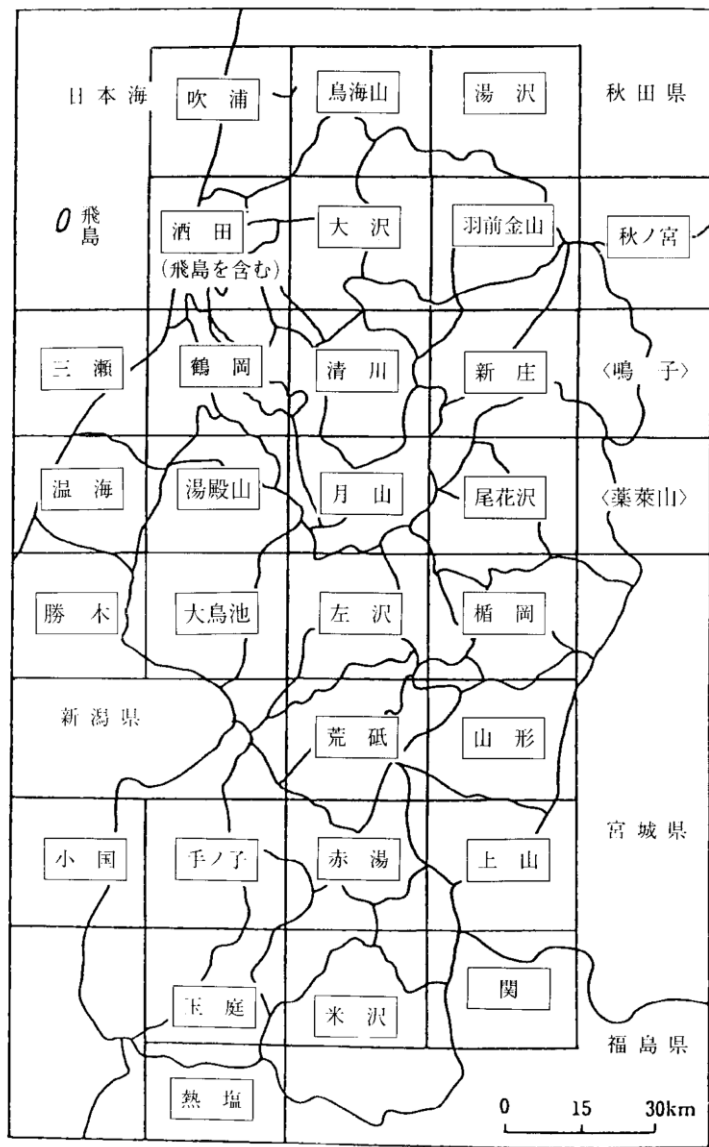
産業技術総合研究所地質 調査総合センター

20万分の1日本シームレス地質

20万分の1日本シームレス地質図®は、これまで出版されてきた地質図幅の図郭における境界線の不連続を、日本全国統一の凡例を用いることによって解消した新しい地質図です。

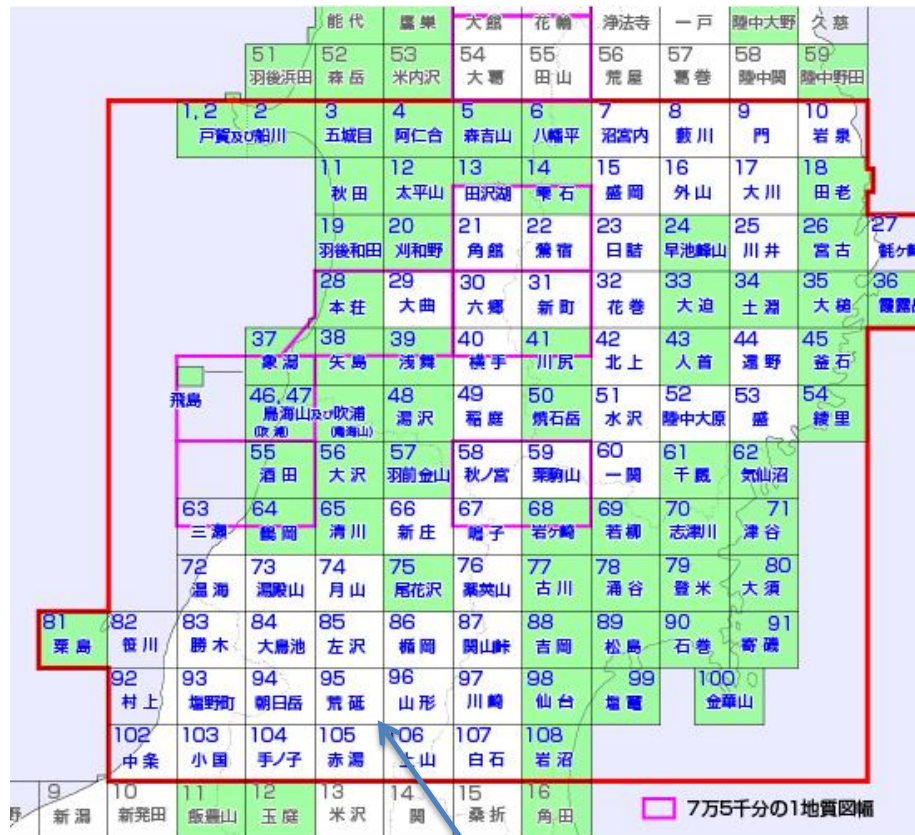
土地分類基本調査 山形県 (山形県5万分の1地質図を含む)

位置図



調査済図葉名
< > 平成9年度調査図葉名

産業技術総合研究所地質調査総合センター 5万分の1地質図幅 出版状況



山形県内は5万分の1地質図が作成されてないところ多数

山形県地質図(10万分の1)を作成するに当たって

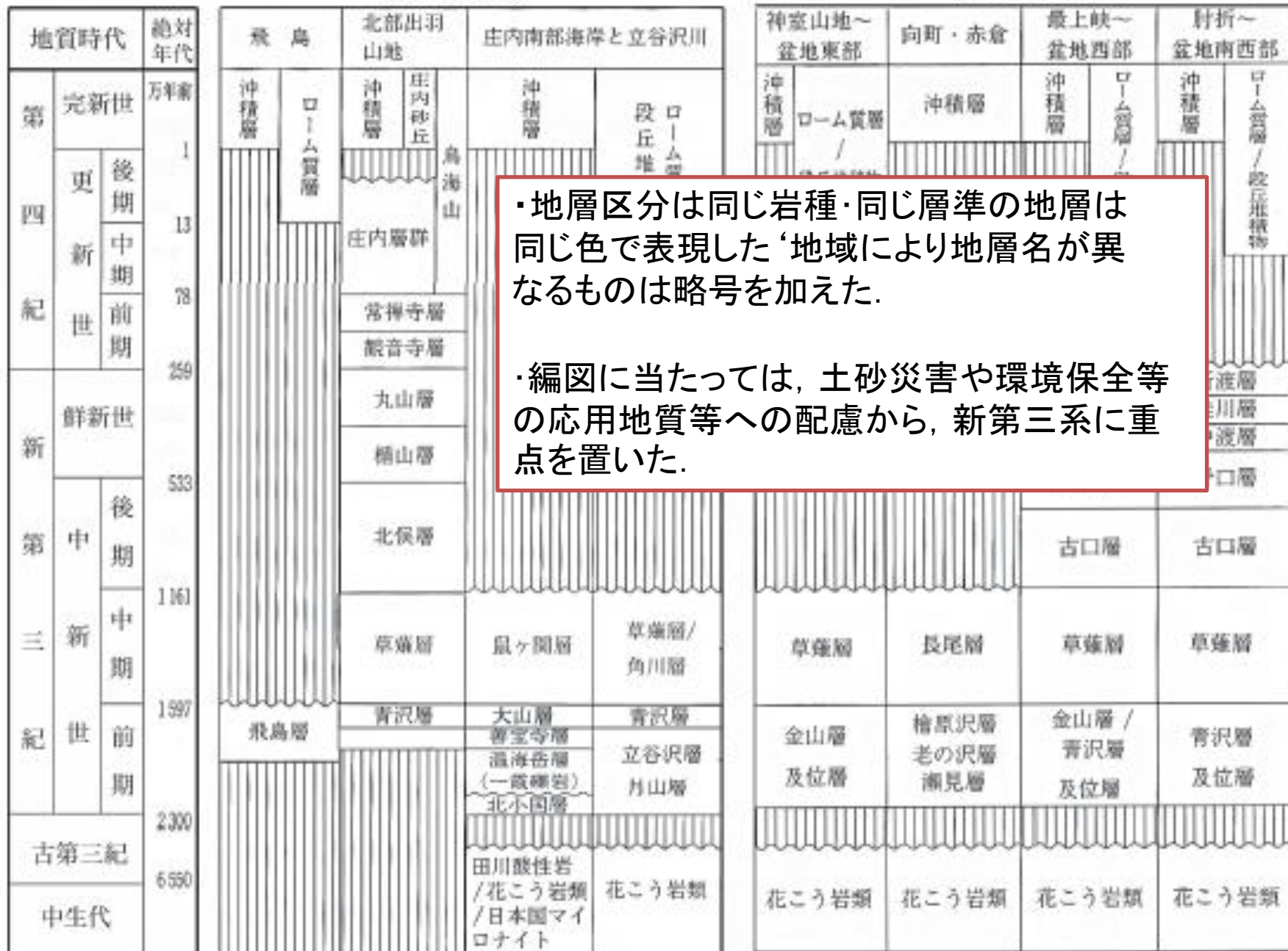
- ・これまで刊行された既存資料の情報と編集者の知見を、10万分の1に縮尺して盛り込んだ。
- ・全県1枚でにするのは大きすぎるので、行政単位でもあり、地質構造状の区分でもある庄内、最上、村山、置賜の4地域に分割した。



図1 山形県の地形(模式)
隆起山地(薄黒部)は、庄内と内陸部を分け、さらに内陸を3つの盆地に分けた。

庄内地域

最上地域



・地層区分は同じ岩種・同じ層準の地層は同じ色で表現した‘地域により地層名が異なるものは略号を加えた。

・編図に当たっては、土砂災害や環境保全等の応用地質等への配慮から、新第三系に重点を置いた。

図2 山形県の地域別総合層序表 (山野井ほか, 2010 に加筆)

出羽山地も当時は深海だった

1500万年前

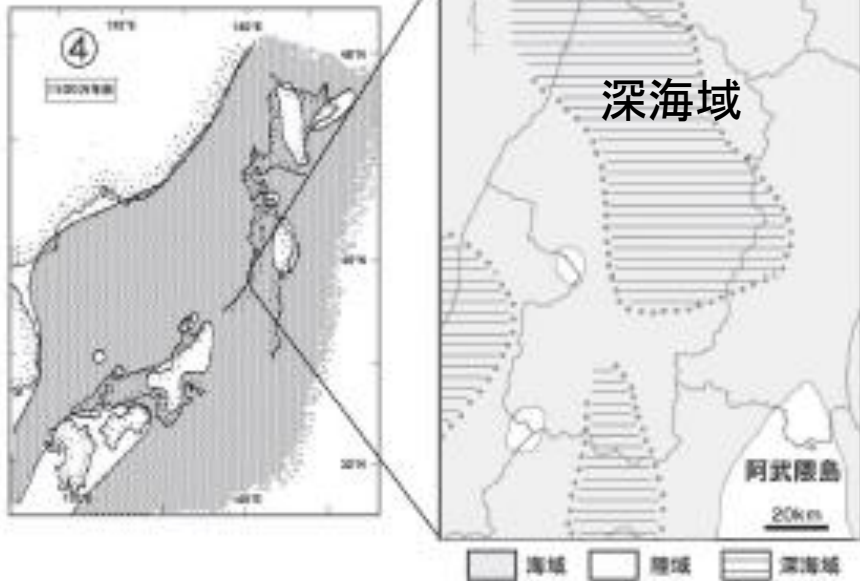


図13 深海の時代 (右図: Sato, 1994 に加筆)
ほぼ全域が海底に没し、その多くは深海となった。

800万年前

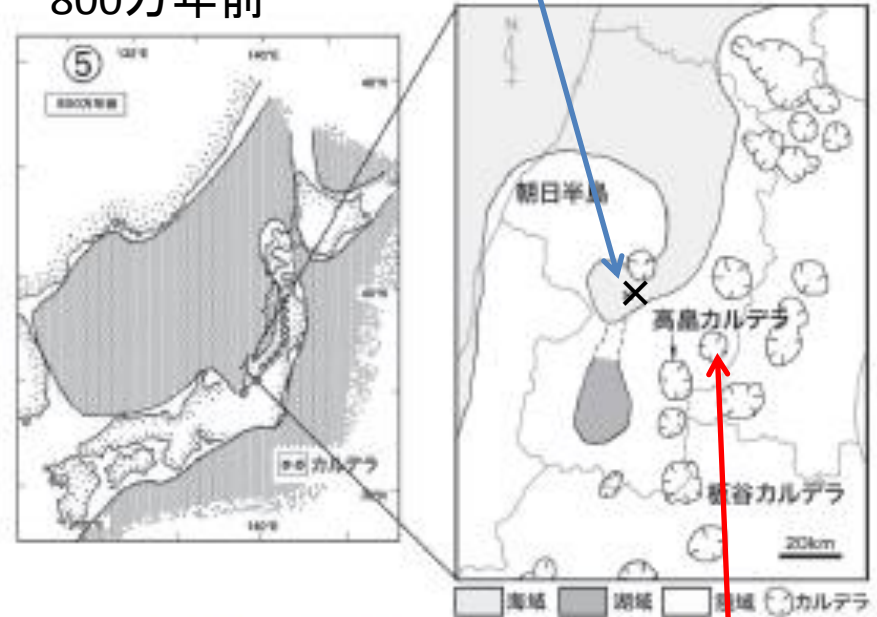


図15 浅海(陸域拡大)の時代 (右図: Sato, 1994 に加筆)
奥羽山脈域や出羽山地域南部は陸化し、北に開く浅海が湾状に残り、カルデラから、多量の噴出物が搬入された。×印はヤマガタダイカイギュウの産地。

山形県地質図の活用

- ・郷土の生い立ちを理解する基礎資料
- ・行政・教育, 民間企業の活用
 - ・・・環境保全, 防災, 建築物の基礎など
 - ・・・県内各市町村教育委員会に謹呈

この頃, 山寺火山(カルデラ火山)が噴火
デイサイト凝灰岩(山形県の岩石)

「山形県地質図(10万分の1)」発表会(出版記念)

開催テーマ 「防災や地方創生につながる新たな山形県地質図の概要と利活用」

日 時 平成28年12月11日(日)14:00～15:30

会 場 山形市保健センター 視聴覚室(霞城セントラル3F)
(山形市城南町一丁目1番1号)

対 象 どなたでも参加可能です(定員140名) 参加費無料

※(一社)建設コンサルタント協会継続教育(CPD)プログラムの認定が必要な方は事前申込みをお願いします。

プログラム

○基調講演

「山形の大地」山形大学名誉教授 山野井 徹 氏

○地質図の概要説明 元山形県工業技術センター所長 田宮 良一 氏
前山形県技術士会会長 本田 康夫 氏

○地質図の利活用 山形大学学術研究院教授 大友 幸子 氏

そ の 他

○この発表会は(一社)建設コンサルタント協会継続教育(CPD)プログラムの認定を受けております。

平成28年11月15日
山形大学

* 詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 廣瀬教授がJSTの大学発新産業創出プログラムに採択されました

山形大学 学術研究院教授 廣瀬文彦（電気電子工学）の「室温原子層堆積法による金属酸化物ナノコーティング技術の事業化」研究が、JST大学発新産業創出プログラム（START）「プロジェクト支援型」における平成28年度第3サイクル審査分に採択されました。本プロジェクトでは、室温（無加熱）で、複雑形状の対象物に、ナノメートル単位で均一に、金属酸化物（セラミック等）を、多数同時にコーティングすることができる、小型コーティング装置を開発します。（本件は、11/9工学部長記者懇談会で説明したものです。）

2. 社会人力育成山形講座 総括フォーラムの開催

文部科学省平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」採択事業「美しい山形を活用した『社会人力育成山形講座』の展開」の取り組みについての成果報告会として、「山形講座から見えてきた大学教育と次世代育成」と題した総括フォーラムを開催します。

日 時：平成28年12月16日（金）13：00～17：00

会 場：ホテルメトロポリタン山形 3F「出羽」

対 象：一般、県内の学生・教育関係者、県内企業関係者（参加無料）

3. 山形大学校友会設立10周年記念事業のご案内

設立から10周年を迎える山形大学校友会では、この機会に、大学を支えていただいている地域の方々はじめ、県民の皆さま、山形大学の学生、卒業生、学生の保護者及び教職員が親交を図り、山形大学の応援団として「山形大学コミュニティ」の醸成と強化に繋げることを目的として、記念事業（記念講演会、記念式典、祝賀会）を企画しました。

日 時：平成28年11月25日（金）14：30～19：30

会 場：小白川キャンパス内

4. バーチャルオープンキャンパスはじめました

山形大学まで足を運ぶのが難しいという方のために、インターネット上で体験できる「バーチャルオープンキャンパス」を大学ホームページに開設しました。キャンパス風景や入試についての動画をはじめ、キーワードに沿った大学説明などのコンテンツを用意していますので、お気軽にアクセスしてください。

<http://www.yamagata-u.ac.jp/enroll/>（大学トップページからアクセスできます。）

平成28年11月15日
山形大学

廣瀬教授がJSTの大学発新産業創出プログラムに採択されました。

山形大学 学術研究院教授 廣瀬文彦（電気電子工学）の「室温原子層堆積法による金属酸化物ナノコーティング技術の事業化」研究が、JST大学発新産業創出プログラム（START）「プロジェクト支援型」における平成28年度第3サイクル審査分に採択されました。

1.概要

研究課題：室温原子層堆積法による金属酸化物ナノコーティング技術の事業化
代表研究者：山形大学 学術研究院教授 廣瀬文彦（電気電子工学）
事業プロモーター：野村ホールディングス株式会社
研究期間：H28年12月～H31年3月（予定）
予算規模：年間三千万円程度（総額1億円程度）

2. 大学発新産業創出プログラムとは

本プログラムは、ベンチャーキャピタルなどの事業化ノウハウを持った人材を「事業プロモーター」として活用し、研究者とともに事業戦略・知財戦略を構築しつつ市場や出口を見据えた研究開発と事業育成を一体的に推進し、ベンチャー企業の設立を目指します。

本プログラムでは、大学などの研究者から技術シーズの申請を受け、事業プロモーターは応募された技術シーズのうち事業化の可能性があるかと判断される技術シーズを絞り、研究者とともにビジネスモデルを検討します。その後、提案される技術シーズやビジネスモデルなどに対して、外部専門家で構成される委員会にて審査（事前評価）を実施し、その結果をもとに新規プロジェクトを決定します。本年度、88件提案があった中で、本課題は第3サイクル分の審査で採択されました。山形大学では三例目の採択になります。

（参考：<http://www.jst.go.jp/start/index.html>）

3.本技術の概要

本プロジェクトでは、室温（無加熱）で、複雑形状の対象物に、ナノメートル単位で均一に、金属酸化物（セラミック等）を、多数同時にコーティングすることができる、小型コーティング装置を開発します。本技術により、製造装置の内部や、精密部品・有機エレクトロニクスなどへのコーティングサービスを提供するベンチャーの設立を目指します。本技術により複雑で精密な構造をもつ製造装置、精密機械、部品に対して、コーティングにより耐久性を向上させ、製品の生産能力、競争力の向上に貢献します。

（お問合せ先）

山形大学学術研究院教授 廣瀬 文彦（電気電子工学）
電話：0238-26-3767
E-mail：fhirose@yz.yamagata-u.ac.jp

三次元・同時多数処理を可能にした室温原子層堆積技術

技術概要

- 本技術は、無加熱の室温で無機酸化物薄膜（シリカ、アルミナ、チタニア、ハフニア）を厚さ50nm程度で低コスト・大量形成する技術であり、施工膜は耐腐食コート、ガスバリア、食品保存、濡れ疎水性制御、誘電体膜としての利用が可能である。
- 本技術は、原料に有機金属ガスとプラズマ化された水蒸気を用い、これらガスを交互導入することで、低温かつダメージレスで薄膜施工を行う。

応用例

ガスバリア

食品包装、飲料用PET、薬品パッケージ、電子部品、有機EL、太陽電池

防食コート

金属部品、真空容器、メタル配管、精密部品防錆、プラスチック強靱化、切削カッター

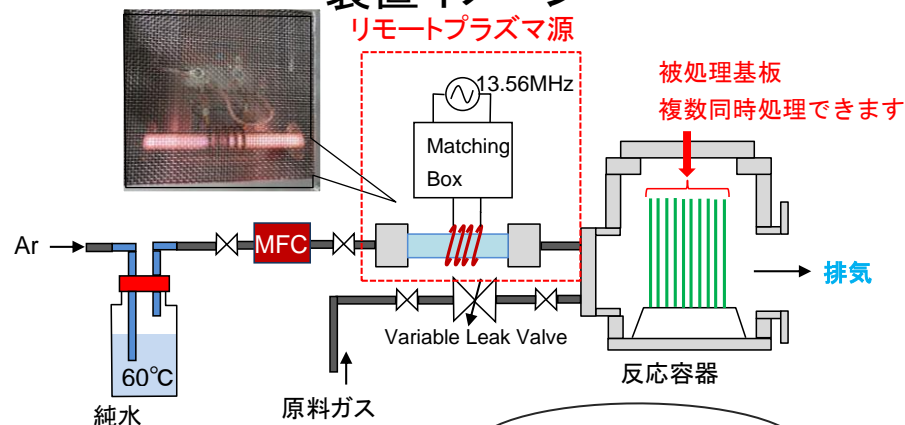
塗装下地処理

プラスチック塗装、接着剤塗装

医療部品・バッテリー

ステント、ペースメーカー、DNA検査装置、Liイオン電池

装置イメージ



組み合わせの妙

原料ガス: 有機金属ガスと
プラズマ化された水蒸気

3つの革新性

室温プロセス : 低ダメージ、低コスト
大量同時成膜 : 製造コストダウン
全面処理 : ガスバリアコートに最適



平成28年11月15日
山形大学

社会人力育成山形講座 総括フォーラムの開催

文部科学省平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」採択事業「美しい山形を活用した『社会人力育成山形講座』の展開」の取り組みについての成果報告会として、「山形講座から見えてきた大学教育と次世代育成」と題した総括フォーラムを開催します。

山形大学を代表校として、県内の高等教育機関や山形県等関係団体と協働して4年間取り組んできた「社会人力育成山形講座」について、基調講演、成果報告及びパネルディスカッションを通して総括すると共に、山形講座の成果を踏まえながら、今後の大学教育のあり方や社会が求める人材についての展望を行います。

◆総括フォーラム実施概要

日時：平成28年12月16日（金）13：00～17：00

会場：ホテルメトロポリタン山形 3F「出羽」

対象：一般、県内の学生・教育関係者、県内企業関係者（参加無料）

内容：1. 基調講演 「企業が求める人材像について」

講師 齋藤 峰彰（株式会社セゾンファクトリー顧問）

2. 成果報告

3. パネルディスカッション 「山形講座から見えてきた大学教育と次世代育成」

※詳しくは、別添チラシをご参照ください。

◆社会人力育成山形講座とは

文部科学省の平成24年度大学間連携共同教育推進事業に採択された「美しい山形を活用した『社会人力育成山形講座』の展開」の取組みとして、平成25年4月にスタートしました。山形県内の多彩な教育資源を取り入れながら、国公私立の枠を超えた山形県内の高等教育機関、自治体および経済界が連携した共同教育事業で、学生の社会力（コミュニケーション力、課題解決力、リーダーシップ）を育成するものです。「感じる山形～教科書の向こう側へ～」、「地域デザインin東沢バラ公園」、「起業論」、「リーダーシップ論」など、これまでに延べ109の授業科目を開講し1,800人の学生が履修しました。

■連携高等教育機関（構成校含む）：

山形大学、山形県立保健医療大学、東北芸術工科大学、東北公益文科大学、東北文教大学、山形県立米沢女子短期大学、羽陽学園短期大学、東北文教大学短期大学部、鶴岡工業高等専門学校、山形県立産業技術短期大学校、山形工科短期大学校の県内11機関

■連携機関：

山形県、山形県市長会、山形県町村会、山形県商工会議所連合会、山形県商工会連合会、山形県中小企業団体中央会、（一社）山形県経営者協会の県内8機関

※詳しくは下記のサイトをご覧ください

<http://sodateru-y.jp/>

（お問合せ先）

教育・学生支援部サテライト
尾形、庄司

電話 023-641-2681

社会人育成山形講座 総括フォーラム

山形講座から見えてきた 大学教育と次世代育成

2016

日時

12/16(金)

13:00~17:00(受付12:30~)

会場

ホテルメトロポリタン山形
3階「出羽」

対象

県内の学生・教育関係者、県内企業関係者、
山形県民、県外大学教育関係者、
山形講座関係者等

定員

100名 参加無料



〈お問合せ・申込先〉

山形大学 教育・学生支援部サテライト
山形市香澄町1丁目3番15号山形むらさきさわビル1階
TEL 023-641-2681 FAX 023-641-2682
E-mail sodateru-y@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
URL <http://sodateru-y.jp/>

〈主催〉山形大学(代表校)・山形人材育成委員会

山形大学、山形県立保健医療大学、東北芸術工科大学、東北公益文科大学、東北文教大学、
山形県立米沢女子短期大学、羽陽学園短期大学、東北文教大学短期大学部、
鶴岡工業高等専門学校、山形県立産業技術短期大学校、山形工科短期大学校、
山形県、山形市長会、山形県町村会、山形県商工会議所連合会、山形県商工会連合会、
山形県中小企業団体中央会、(一社)山形県経営者協会

社会人力育成
山形講座
総括フォーラム

山形講座から見えてきた 大学教育と次世代育成

文部科学省平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」採択事業・美しい山形を活用した「社会人力育成山形講座」の展開

日時

平成28年12月16日(金)
13:00～17:00(受付12:30～)

会場

ホテルメトロポリタン山形 3階「出羽」
〒990-0039 山形市香澄町1丁目1番1号
TEL 023-628-1111

対象者

県内の学生・教育関係者、県内企業関係者、
山形県民、県外大学教育関係者、
山形講座関係者等

定員

100名 参加無料

〈趣旨〉

学生の生活環境は、大学(学校)から社会(組織・仕事)へと向かう転換期にあります。いわゆる大学から仕事への移行という時期です。大学教育では、そのための学修支援としてキャリア教育、アクティブラーニングによる新しい能力育成等々に取り組んでいます。

このような流れを牽引する一つとして、平成25年度から社会人力育成山形講座を開講してきました。その特徴は、大学間連携の名の通り単位互換型科目とし、アクティブラーニング度が高い授業形態を取り、社会人として求められる能力育成に取り組む、などというものです。

それでは、山形講座はどのような成果が生まれ、次の大学教育にどのようにつながっていくのでしょうか。このフォーラムでは、まず山形講座の成果を概略報告し、さらに、基調講演を受けて、これからの大学教育と将来を担う次世代の育成を重ねて展望してみます。

〈プログラム〉

● 開会

13:00～13:25

主催者あいさつ 小山 清人(山形大学 学長)

来賓あいさつ 井上 睦子(文部科学省 高等教育局大学振興課大学改革推進室 室長)

● 基調講演

13:25～14:15

テーマ:「企業が求める人材像について」

講師 齋藤 峰彰(株式会社セゾンファクトリー 顧問)

● 成果報告

14:15～15:15

山形講座 成果報告

山形講座全体 大川 健嗣(東北文教大学 人間科学部長・教授)

山形フィールドワーク教育 滝澤 匡(山形大学 准教授)

山形プロジェクト教育 横井 博(山形大学 教授)

山形起業教育 池田 知之(東北芸術工科大学 講師)、青木 孝弘(東北公益文科大学 特任講師)

リーダーシップ教育 柴田 孝(山形大学 教授)、加藤 麻友子(山形大学 1年)

● 休憩 (15分)

● パネルディス カッション

15:30～16:45

テーマ:「山形講座から見えてきた大学教育と次世代育成」

座長 安田 弘法(山形人材育成委員会 委員長 山形大学 理事・副学長)

パネリスト 齋藤 峰彰(株式会社セゾンファクトリー 顧問)

小沢 喜仁(福島大学 理事・副学長)

伊藤 耕平(寒河江市 さがえ未来創成課 課長)

大川 健嗣(東北文教大学 人間科学部長・教授)

柴田 孝(山形大学 教授)

● 閉会 16:45

● 情報交換会

17:00～18:00

会場 5階「のぼり路」

【参加申込方法】

氏名、所属機関(部局)、住所、電話番号、E-mailアドレス、
情報交換会(会費 3,000 円)への参加の有無を明記し、
右記のいずれかの方法でお申し込みください。

申込期限/平成28年12月9日(金)(定員になり次第締め切り)

FAX

023-641-2682

E-mail

sodateru-y@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

〈お問合せ・申込先〉

山形大学 教育・学生支援部サテライト

山形市香澄町1丁目3番15号山形むらさきさわビル1階

TEL 023-641-2681 FAX 023-641-2682

E-mail sodateru-y@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

URL http://sodateru-y.jp/

〈主催〉山形大学(代表校)・山形人材育成委員会

山形大学、山形県立保健医療大学、東北芸術工科大学、東北公益文科大学、東北文教大学、山形県立米沢女子短期大学、
羽陽学園短期大学、東北文教大学短期大学部、鶴岡工業高等専門学校、山形県立産業技術短期大学校、山形工科短期大学校、
山形県、山形市長会、山形県町村会、山形県商工会議所連合会、山形県商工会連合会、山形県中小企業団体中央会、
(一社)山形県経営者協会

参加申込書	[氏名]	[所属機関(部局)]
	[住所]	[電話番号]
	[E-mail]	
	[情報交換会の参加] (どちらかを○で囲んでください)	有 (会費 3,000 円) (当日会場にてお支払いください) ・ 無

平成28年11月15日
山形大学

山形大学校友会設立10周年記念事業のご案内

山形大学校友会（会長：小山清人学長）は平成18年12月6日に設立され、山形大学における全ての学部の在学生とその卒業生、役員、教職員、退職者等の会員（生涯会費10,000円）で構成され、“山大応援団”として山形大学や山形大学の学生等を支援する全学的な組織です。今年、設立から10周年を迎えます。この機会に、大学を支えていただいている地域の方々はじめ、県民の皆さま、山形大学の学生、卒業生、学生の保護者及び教職員が親交を図り、山形大学の応援団として「山形大学コミュニティ」の醸成と強化に繋げることを目的として、記念事業を企画しました。

◆日時：平成28年11月25日（金） 14：30～19：30

◆会場：小白川キャンパス内

★記念講演会

時間・場所：14：30～16：10 基盤教育2号館2階221講義室

講演題：自分の人生を通じて伝えたい「元気・勇氣・夢」

～ファミリーマート再建の経験に学ぶ！～

講師：ユニー・ファミリーマートホールディングス株式会社

代表取締役社長 上田 準二氏

（山形大学文理学部卒・山形大学経営協議会委員）

※ 「記念講演会」は、招待者と基盤教育授業とのコラボ開催です。

どなたでも参加できますが、すでに221講義室は満杯のため、第二会場

（211講義室）で遠隔配信により視聴いただきますのでご了承ください。

★記念式典（一般の方の参加はご遠慮いただいております）

時間・場所：16：30～17：10 山形大学文化ホール

※ 「記念式典」には、来賓として山形県知事、山形市長、山形銀行頭取及び山形南高校校長様等をはじめ多くの皆さまに出席いただく予定です。

★祝賀会（一般の方の参加はご遠慮いただいております）

時間・場所：17：30～ 山形大学厚生会館1階食堂ホール

◆記念事業として実施する主なもの：

(1) 記念講演会の開催（28.11.25開催 …案内チラシは別添のとおり）

(2) 記念式典・記念祝賀会の開催（28.11.25開催）

(3) 山形大学校友会のシンボルネーム又は愛称の募集（28.7.11～28.9.30）

- (4) 校友会会員「卒業同窓生の集い」への支援募集（28. 7. 11～29. 1. 20）
- (5) 「関西セミナーby山形大学」の記念開催〈関西地域〉（29. 2. 18開催）
- (6) 学生による「校友会支援事業」の成果発表会の記念開催（28. 7. 26&10. 28開催）
- (7) 新入生への入会記念品贈呈《「学生朝食奨励券」進呈（28. 4. 5入学式にて実施）》

◆記念事業の実施体制：

[校友会設立10周年記念事業実施委員会委員]

委員長	大場 好弘	山形大学理事・副学長〈校友会理事〉
副委員長	野村 一芳	ふすま同窓会会長〈校友会理事〉
委員	山崎洋一郎	一般社団法人米沢工業会理事長〈校友会理事〉
//	齋藤 博行	農学部鶴窓会副会長〈校友会理事〉
//	竹田 隆一	山形大学学術研究院教授 (地域教育文化学部担当〈校友会理事〉)
//	山川 光徳	// (医学部担当〈校友会理事〉)

(お問合せ先) 山形大学校友会事務局 電話 023-628-4867
--

自分の人生を通じて伝えたい 「元気・勇気・夢」

～ファミリーマート再建の経験に学ぶ！～

平成28年

11/25 金
14:30～16:10

場所 山形大学 小白川キャンパス
基盤教育2号館2階221講義室

講師

ユニー・ファミリーマートホールディングス株式会社
代表取締役社長

上田 準二 氏

秋田県横手市出身
1970年山形大学文理学部卒
山形大学経営協議会委員

上田氏は大学時代を山形大学で過ごされ、卒業後は日本でも有数の商社である伊藤忠商事に入社し、その後さまざまな業務経験を積み、特にファミリーマートの再建を託された人物として尽力されたことは衆知のことである。

校友会設立10周年を記念した今回の講演会では、山形大学の卒業生のお一人としてご自身の人生経験やファミリーマート再建の過程における失敗談や成功談を通じて、これからの未来を生きる後輩学生らに「元気・勇気・夢」を熱く語っていただきます。

◆校友会設立10周年記念事業の目的

校友会設立10周年をお祝いし、10年の歩みを振り返りながら、大学を支えていただいている地域の方々をはじめ、県民の皆さま、山形大学の学生、卒業生、学生の保護者及び教職員が親交を図り、山形大学の応援団として「山形大学コミュニティ」の醸成と強化に繋げることを目的としています。

記念講演会終了後、下記のイベントを予定しています。

★記念式典(16:30～)場所:山形大学文化ホール

★記念祝賀会(17:30～)場所:山形大学厚生会館食堂ホール

※一般の方の参加はご遠慮いただいております。

主催:山形大学校友会・校友会設立10周年記念事業実施委員会

平成28年11月15日
山形大学

バーチャルオープンキャンパスはじめました

山形大学まで足を運ぶのが難しいという方のために、インターネット上で体験できる「バーチャルオープンキャンパス」を大学ホームページに開設しました。キャンパス風景や入試についての動画をはじめ、キーワードに沿った大学説明などのコンテンツを用意しました。いつでも、どこでも、お気軽に山形大学の魅力に触れていただけるサイトです。

山形大学では、高校生・保護者のみなさまに、山形大学をもっと知っていただくため、毎年度オープンキャンパスを開催しております。入試等の入学前の情報、大学でどんなことが学べるか、どんな生活を送るのか、どんな資格が取得できるか、といった、入学後の情報、そして、卒業後にこういった進路に進めるか、といった卒業後の進路の情報等を公開しています。



大学トップページからアクセスできます

このたび、もっと山形大学を知りたい、山形大学のことについて相談したい保護者の皆さまや、山形大学に興味がある高校生に広く情報を提供するため、「山形大学バーチャルオープンキャンパス」というウェブサイトを開設いたしました。

【動画コンテンツ】

- ・キャンパス風景
- ・国立大学で学ぶことについて
- ・平成29年度入試について

【大学説明】

気になる7つのキーワード「学」「留」「入」「食」「住」「金」「卒」に沿って、山形大学の魅力を紹介しています。

【アドレス】

<http://www.yamagata-u.ac.jp/enroll/>

（お問合せ先）

エンロールメント・マネジメント部
EM企画課 EM担当
電話 023-628-4063

いつでも、自宅で、オープンキャンパス!!

山形大学ホームページで バーチャルオープンキャンパス はじめました!!

「山形大学まで足を運ぶことが難しい」という方のために、インターネットからも体験できるオープンキャンパスを開催しています。分かりやすい動画による説明をはじめ、内容もりたくさん。ぜひ、お気軽にアクセスしてください!



分かりやすい動画コンテンツが充実!!



7つのキーワードにそった 大学説明

「学」「留」「入」「食」「住」「金」「卒」の気になる7つのキーワードに沿って山形大学の魅力を紹介します。

気軽に質問できる 問い合わせフォーム

バーチャルオープンキャンパスだけでは分からないことも、問い合わせフォームから気軽に質問できます。

今すぐアクセス!!

山形大学 バーチャルオープンキャンパス

検索

yamagata-u.ac.jp/enroll/



問い合わせ: 山形大学エンロールメント・マネジメント部EM企画課
tel 023-628-4063 fax 023-628-4144 mail enroll@jm.kj.yamagata-u.ac.jp